



寄り添う心
つながる手

心がいっぱい
朝日町ボランティア
マスコット
ハートフルちゃん

ふれあいネットワーク

ハートフル通信

オール朝日町で支え合う 安心生活のまちづくり(町社協の基本理念)

令和6年8月1日

第29号

編集・発行
朝日町社会福祉協議会
富山県下新川郡朝日町泊418
tel.0765-83-0576
fax.0765-83-1589
https://asahiwel.com

特集

被災地の復興に向けて ～わたしたちにできることを考える～



令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、多くの方が被災され、現在も復興に向けて多くの方が関わって支援をしている状況です。富山県内においても、被災者の困りごとや求めること(ニーズ)を把握して、ボランティア活動などの支援へつなぐ『災害ボランティアセンター』が立ち上げられました。

今号では、復興に向けて支援が続く災害ボランティアの活動についてお届けします。



女性(N.Nさん)

5/27珠洲市で活動



炊き出しボランティアをしている友人のお手伝いで、珠洲市の避難所で暮らす方々に鶏そば丼を作りました。珠洲市は当時、水道の復旧率は4割程度であったため、自炊ができないご家庭が多く、炊き出しはとても喜ばれました。その日は、10時30分頃から炊き出しに並びはじめ、配布時間の正午には長い列となっていました。100食分を用意したのですが、数人にお渡しすることができず心残りです。「美味しかった」「がんばるわ」「また来てね」と言っていたとき、本当に嬉しく感じました。ボランティアに行ったこちらの方が勇気づけられたように思いました。頑張ってくださいと言ったのも違うと思いつつ、やっとならなくていいと言葉は、頑張ってください、でした。今後自分にも何ができるか考えていきたいと思っています。



上原 祐一さん

3/4能登町、
4/30珠洲市で活動



被災地の能登半島は、過去に遊びに行ったこともあり、好きな所で興味がある場所でした。災害後、自分にも何かできないか、と友人と炊き出しに2回行きました。現地は、発災当時のままでニュースで見るとより悲惨な状態でした。地震によって潰された家や、津波によって流された漂流物などがそのままだったのです。そのような大変な状況が続くなか、被災者が一時的に暮らす避難所で炊き出しを行いました。避難所の生活は、たくさんの方々が一緒に生活するため、寝食ができるほどの限られたスペース



※写真は災害ボランティア活動者が撮影。

しかない様子でした。避難所の食事は、衛生管理がしやすい似たような食事になるため、あたたかい炊き出しが少しでも被災者の方の楽しみになるように、季節を感じられる工夫も施し、お渡ししました。また、これからの復興に向けて関わっていただきたいと思います。

朝日町社会福祉協議会による被災地への職員応援派遣

朝日町社会福祉協議会では富山県社会福祉協議会と連携し、令和6年能登半島地震の被災地の社会福祉協議会へ応援派遣を行っています。主な業務は、社会福祉協議会が運営する「災害ボランティアセンター(たすけあいセンター)」の運営サポートです。

※輪島市社会福祉協議会では、被災における生活面や暮らしの全体を支えていけるよう「輪島市災害たすけあいセンター」という名称で運営しています。

○富山県氷見市・高岡市 1/14、2/23～2/25、3/16

延べ5日間

○石川県輪島市(門前) 5/24～5/29、7/3～7/8

延べ12日間

輪島市社会福祉協議会へ応援に行きました職員の声を紹介します

ボランティアへ依頼される活動内容については、被害のあった家屋からの家具、貴重品等の搬出が多い状況でした。家屋の被害の程度によっては、一般ボランティアが対応できないこともあり、特殊技術により対応する技術系のNPO法人やボランティア団体の活動が目覚ましく感じました。

また、災害ボランティアの活動についての情報をより広く行き届かせるために行った各家庭訪問においては、長引く避難生活で空き家となっている家も多く、地域コミュニティの再生が困難を極めるのではないかと強く感じました。一方で、仮設住宅から定期的に自宅を訪れ、少しずつ家屋の掃除をされたり、慣れ親しんだご近所と励まし合ったりする光景もよく目にしました。家屋が壊れ、愛着のある人と地域から離れざるを得なくなる辛い日々のなか、ほんの少しでも前に進もうとする想い。かけがえのないそんな想いに触れる機会もありました。ただ、被害状況が極めて甚大ななか、まだまだ復興への道のりは遠く、災害ボランティア活動も含む支援が必要な状況に変わりはなく、今後も関わり続ける必要があると感じました。

応援派遣における主な業務

- ・災害ボランティアのニーズ調査のための各家庭訪問
- ・災害ボランティア希望者宅への現地調査
- ・災害ボランティア活動に必要な資機材の準備
- ・災害ボランティア活動者の受付 等



ボランティアの受付



ボランティア活動内容の説明



活動に必要な資機材

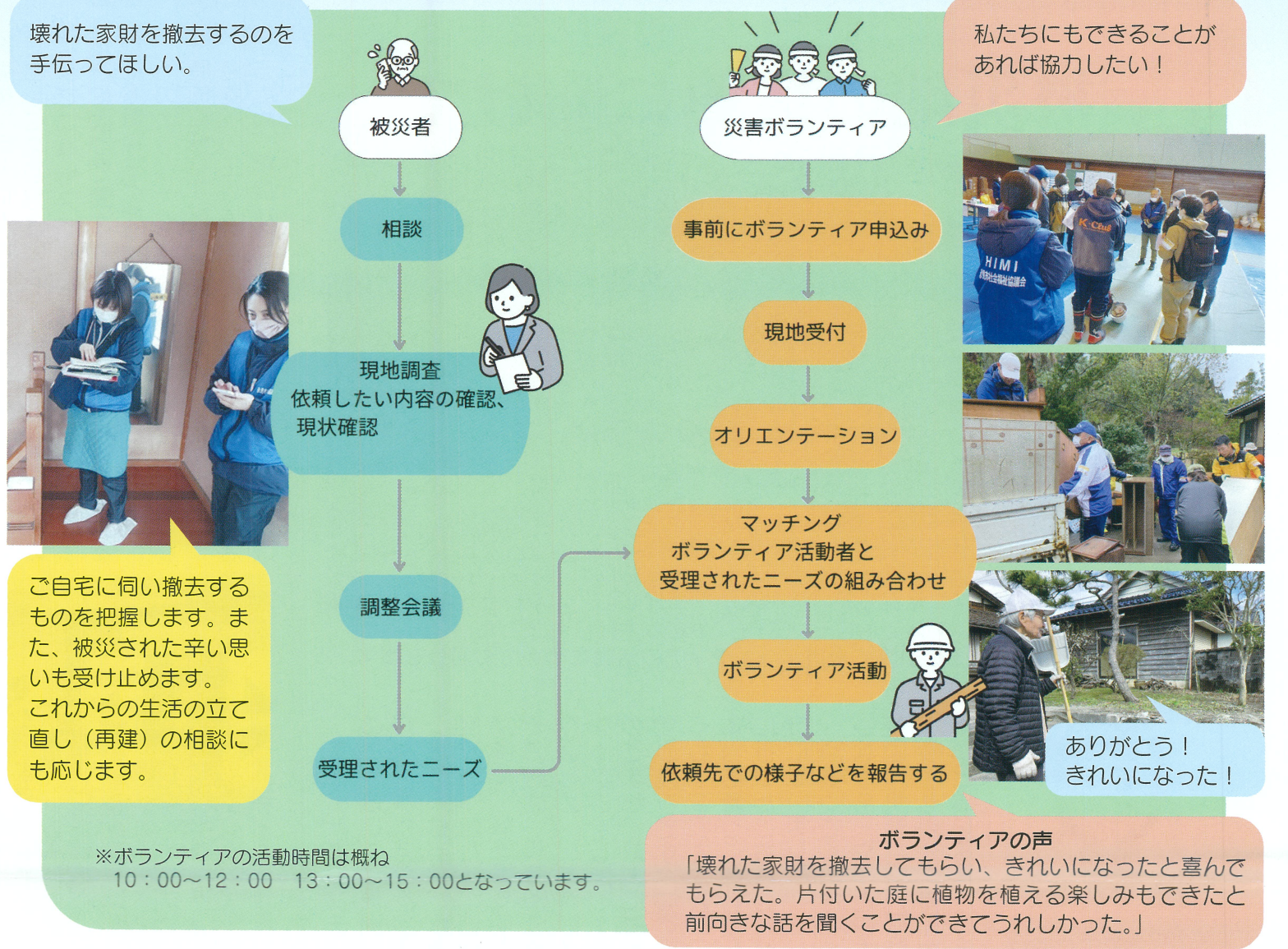




災害ボランティアセンターについて

災害ボランティアセンターは、被災者・被災地を主体としながら、ボランティアの協力を得て、地域の復興につなげていくことを目的とした災害時に設置されるセンターであり、被災地での災害ボランティア活動を円滑に進めるための拠点です。また、被災者のこれからの生活再建に向けてサポートするセンターでもあります。

もし、大きな被害を受けた場合は災害ボランティアセンターを頼ってください。ここでは、災害ボランティアセンターがどのような流れで活動をしているのかご紹介いたします。



被災地復興のためにできること

豆知識

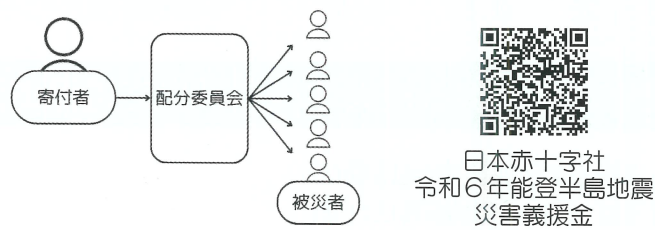
このハンドサインは、能登半島を意味しています。現地の応援に来た方々で、このハンドサインをして写真を撮ることが受け継がれています。

「任期を終えて地元に戻るけれども、気持ちは能登とずっと一緒…」とか「嬉しいことがあったときにガッツポーズまではできないからこのハンドサインで喜ぶ。」ときにハンドサインをしているそうです。



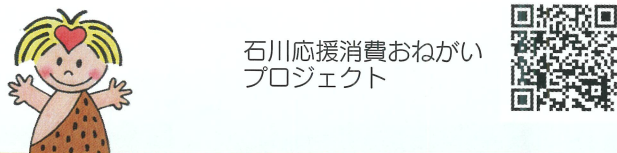
○義援金

義援金は、被災県が設置する配分委員会によって被災者へ平等配分されます。



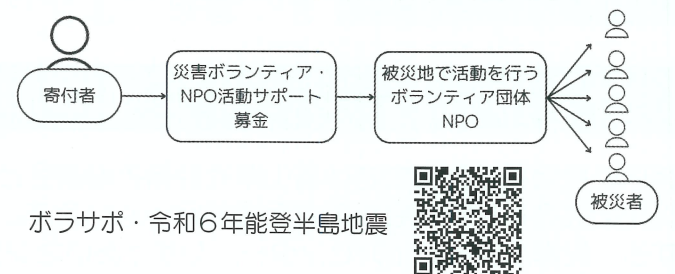
○被災地の品物を買う、被災地へ観光で訪れる

被災地の農産物、畜産物、水産物、加工品等を購入したり、観光に訪れたりすることは被災地域の経済を支援したり、活性化させたりすることができます。



○支援金

支援金は、被災地で支援活動を行うボランティアやNPO・NGOの活動資金として活用されます。



○気にかけて続ける

災害に関するニュースは減ってきますが、SNSを通じて現地の状況をキャッチし、現在の状況を知ってください。



朝日町社会福祉協議会 賛助会員を募集中!

賛助会員とは、朝日町社会福祉協議会が進めている地域福祉活動に賛同し、地域福祉活動を資金面で応援していただく「社協サポーター」です。

- 個人 1,000円(一口) ●団体 2,000円(一口) ●事業所・企業 5,000円(一口)

※いずれも年度毎の募集となります。

賛助会費の納付先

北陸銀行 泊支店 普通口座 口座番号1010310

名義 シャカイフクシハウジン アサヒマチシャカイフクシキョウギカイ

※お振込の際の振込手数料は、「受取人負担」をご指定ください。

なお、直接、朝日町社会福祉協議会事務所へご持参いただいても結構です。



朝日町社協HP



朝日町社協 Facebook

編集後記

1月に起きた令和6年能登半島地震において、朝日町民の方も災害について不安に感じられたと思います。そこで、今号では被災地でどのような活動が行われているのか、また社会福祉協議会ではどのような対応をしているのか知ってもらえる機会になればと思います。そして、何かあった場合の相談先として社会福祉協議会のことを覚えていただければ幸いです。(西永)

～収集ボランティア活動～
ご協力ありがとうございました
◆明文堂書店様
ほか、匿名の方々からもたくさんのご寄付をいただきました